

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人：ロバート・ウイットマー

「最初のしるし」

ヨハネによる福音書二章一〜十一

小西 望



ご卒業おめでとうござい
ます。いよいよ宣教の現場へ出
られるにあたって、ご健闘を
祈ります。

私も神学校を出たときのこ
とを思い起こします。教師か
ら「何か希望はあるかね」と
訊ねられたとき、「全国どこ
でも行きます。ただ、主任牧
師のもとで経験をしたいです。
あと付帯施設のない教会を希
望します。」と答えました。「そ
うかそうか」と教師は言っ

いました。蓋を開けてみる
と、紹介されたのは主任担任
で、保育園長兼務でした。場
所は宮城県。私は二年で出て
やろうと思いましたが、結局
一四年務めることとなりまし
た。教師の先見の明でしょう
か。いや、みどころがあった
のでしょう。その後、同じ地
区の教会に移り、一七年目を
歩んでいます。

現場に出るといろんなこと
をせねばならず、いろんなこ
とができるようになりました。
会計管理と複式簿記、社会保
険事務、自動車の売り買いと
諸手続き、エアコンの設置、
マイクロスバスの運転、下水道
詰まりの修繕 などです。
こうしたことはできるようにな
った一方、ちゃんと礼拝説
教ができるようになったのか

はよくわかりません。
「何でこんなことしてるんだ
ろう」と思うこともしばし
ばです。が、そうした時学生
時代世話になった牧師の言葉
を思い出します。『福音のた
めなら、わたしはどんなこと
でもします』（イコリント九
・二十三）とパウロも言ってる
だろう。だからわしらもなん
でもせないかんのだ。それが
『福音に共にあずかる』道なん
だ。こう言われたことを思い
起こして、下水道に立ち向か
う。格好良く言えば、そうい
うことです。

現場に出て、劇的なことは
そう起こりません。携わる多
くは一見つまらないと感じる
かもしれない日常の事でもで
す。でもそうした日常はふい
に与えられる「その時」とつ
ながっていて、私たちの日常
の事どもへの向き合い方が「そ
の時」の立ち振る舞いに関わ
るのです。

二〇一一年三月一日午後
二時四十六分、東日本大震災が
起こった時私は牧師館の二階
にいました。当時、教会には
付属幼稚園があり、四名の園
児が教会堂にいました。幼稚
園はその三月末に閉園するこ
とが決まっていた、これが全
園児でした。私は激しく揺れ
続ける階段をずり落ちるよう

に降り、子どもたちのいる方
へと走りました。大きなガラ
スが畳三枚分くらい砕け落ち
た礼拝堂を駆け抜けて行って
みると、子どもたちは既に二
人の先生が適切に誘導して前
庭の中央に伏すように避難し
ていました。私が合流して、
なお数分激しい揺れが続いて
いたように思います。教会堂
の塔がまるで捻れるように揺
れ動いているのを私たちは言
葉も出せずに見つめていまし
た。やつと揺れが収まった時、
私は「ああ大変だった、もち
ろんいろんな被害が出ている
だろうけれどもこれで終わっ
た」と思ったのです。全く愚
かなことでした。お分かりの
ように、これは終わりなどで
はなく始まりでした。このと
き発生した津波に一人の教会
員がのみ込まれようとしてい
たことを私は想像することが
できませんでした。それは私
の日常に「地震」まして「津波」
はなかったからです。

これは金曜日の出来事でし
た。三日後の月曜日、仙台の
東北教区センターには神戸か
ら柴田信也牧師・新潟から新
井純牧師が駆けつけられまし
た。彼らの日常に「地震」が
あったからです。阪神・淡路
大震災、中越、中越沖地震を
それぞれ経験されたお二人は、
こうした時何を置いても現地

に行くことだと、交通も困難
な中駆けつけてくださったの
でした。お二人の助言は、何
をどうしてよいのかわからな
い私たちの大きな力となり、
初動が立ちあげられ、東北教
区被災者支援センターエマオ
が立ちあげられていくことと
なりました。皆さんの中にも
支え関わってくださった方が
おありでしょう。感謝申し上
げます。

こんなこともありました。
被災者支援センターエマオが
立ちあげられ、全国からボラ
ンティアワーカーたちが集ま
ってくる中、センターは津波
被災地に入って活動をしたい
と願いました。が見ず知らず
の、しかもキリスト教関係者
はなかなか信用してもらえず、
入ることが叶わなかったので
す。

そうした中、二人のキーマ
ンが与えられました。一人は
キリスト教海外医療協力会（J
OCS）の災害派遣医師とし
て既に被災地に入り、地域の
人々から信頼されていた樫戸
健次郎医師です。樫戸さんが
間に入ってエマオのワーカー
たちを紹介してくれ、地域の
人たちが樫戸先生が言うのな
ら大丈夫かなあ、と心を開い
てくださったのでした。

もう一人は若林区荒井笹屋
敷地区で津波被災した大工で

少年野球監督の、菅原さんです。菅原さんは話を聞いて「よし、俺はこの地域の新参者だから、失敗しても失うものはない（実は住んで二〇年ほどだったのですが）。お前たちに賭けてみよう。」と、「じゃあ、俺んちの外側をまづきれいにしてくれ」と言われました。ワーカーたちがヘドロを取りのけ、外壁を洗ってきれいにした時、菅原さんは地域に自慢して廻られました。「俺んちきれいになっただろう。こいつらがやったんだぞ。」それで、じゃあウチも、コッチも、とワーカーたちに声がかかるようになったのでした。ちなみに菅原さんの家の中の修復に手がつけられたのはずっと後になってからでした。

植戸さんの日常には「災害・地震」があり、菅原さんの日常には地域での地道な働きがありました。だからエマオは笹屋敷地区に入ることができ、そのつながりは今日まで八年に及んでいます。

これらの経験からつくづく思わされ、教えられたのは、日頃取り組んでいないことは「その時」に生かせない、ということ。その時が来たらずらやろうというのは無理なこと。で、むしろ私たちが日頃何に目を配り、何を大切なこととして歩むかが問われるのです。

やっぱり日常と「その時」はつながっていると思わされます。

待たなければなりませんか

また大震災を経験する中で、聖書のある言葉がよりリアルに具体的に響くようになりました。その一つに、バプテスマのヨハネが使いを立てて訊ねさせた、まだ「待たなければなりませんか」とのルカ福音書七章の言葉があります。

「来るべき方は、あなたでしようか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」これはあなたが待たれたキリストですか、と共に、いつになったら救いは訪れるのでしょうか、との問いでもあります。

ご存じのように、これに対し主イエスは「行って、見聞きしたことを：伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。」とお答えになりました。完全な救いの実現はまだ遠いかもしれない。でも小さな一人が助け起こされているなら、確かに神の国はここに始まっている、こう主イエスは仰ったのだと気づかされたのでした。

いつになったら復興に達するのだ、いつまで待たなければならぬのか、これが被災地の思いでした。でも全国世界からワーカーがしかも手弁当で駆けつけヘドロがどけられ、瓦礫そして石ころが取り除かれ農地が回復していく、それは小さなことだけれども神の国の芽吹きはここに始まっているのかもしれない、と私たちは励まされたのです。

最初のしるし

今日はヨハネ福音書二章、カナの婚礼の場で主イエスが水をぶどう酒に変えられた箇所を共にしました。召し使いたちが懸命に汲んだ大きな水がめ六つ分の水を主イエスがおいしいぶどう酒に変えられ婚礼の喜びが継続したこの出来事を、この福音書は「最初のしるし」と呼んでいます。

この後ヨハネ福音書はさらに五つの「しるし」を記しています。役人の息子の病気を癒されたこと、ベトサダの池で三八年間歩けなかった人を立ちあがらせたこと、五つのパンと二匹の魚で五千人を養われたこと、生まれつき見えなかった人の目を開かれたこと、そして愛するラザロを死から起こされたこと、これらが「しるし」とされています。

「最初のしるし」を顕わされるに際し、主イエスは「わたしの時はまだ来ていません」と言われ続けました。ご承知のように、ヨハネ福音書において「主イエスの時」とは十字架の時のことです。主イエスがその命をも捧げて死を遂げられる十字架が「イエスの時」、さらには「栄光」とこの福音書で指し示されています。それは、十字架で死を遂げ世に救いの礎を据えることこそ、主イエスの最大の使命であり、神のみ旨に他ならないからです。

主イエスは「わたしの時はまだ来ていません」と言われました。が、何もなさらなかった訳ではありませんでした。召し使いたちに水を汲ませ、それを上等のぶどう酒に変えて「最初のしるし」を顕わされたのです。

世に救いが据えられる「その時」はまだであつても、主イエスはその時々にもみ旨とみ業を振られるのです。「しるし」を顕わされ、試練あり欠乏あり窮地のある世のただ中にも確かに神の祝福が実現するその業を注ぎ出されることがここに指し示されています。

「その時」に先立つ日常の時、私たちが遣わされる一見平凡かもしれない日常においても私たちはそこに生きて働か

る主に会えることができる、そのみ旨そのみ業に関わることができる。それはちょうど召し使いたちが水を汲み続けたように。一見つまらないと感じるかもしれないその働きをも、主イエスは用いられてみ業を顕わされます。そして私たちが出会い関わる小さな出来事は、主なる神がついに実現される救いの出来事・大いなる祝福の出来事とつながっています。

そのことを信じて、遣わされた場での日々、その業に向かい行くものでありたく願います。



新任講師紹介



柳下明子

はじめまして。二〇一九年前期、宗教改革から近代までを担当させていただく柳下明子です。わたしは日本基督教団武蔵野緑教会の牧師として働きながら、日本聖書神学校の教務の仕事をしています。そのような生活の中、時間的な制約も大きいので農村伝道神学校にご出講させていただくことには不安もありましたが、学期が始まって一か月、なんとか慣れてきました。週一回、電車とバスを乗り継いでお山を登って農村伝道神学校に通いながら、自分が働いている神学校と共通している点、異なっている点、日々学ばせていただいています。

共通している点としては、まず学生が学びに熱心ということ。ほぼ全員が授業時間中には何かしらのご意見があり、授業の範囲外の質問もあり、楽しい時間が続いています。宗教改革期の教会の在

り方を学ぶことは、自分たちのルーツを知ることであり、それをどのように理解し何を未来に受け継いでゆくかは、とても大切です。第二に共通している点としては神学校の事務担当者の献身ぶりです。自分が働いている神学校でもつねづね「教務部長代行（わたしのことです）」がいなくても神学校は回りますが、教務と総務の職員がいないとたちどころに神学校は倒れます。」と公言していますが、たった

一か月でも農村伝道神学校の主幹がどのあたりなのかは想像できるところです。シオン幼稚園保護者のお立場から、また関係教会の信徒のお立場から神学校の事務に関わるようになられたお二人とお話を伺うと、神学校はこうした神学校への思いをお持ちの信徒の方によって支えられていることを改めて知らされています。第三の共通点は後援会のお支えです。ある時は一日かけて後援会の方々が後援会グッズのアイデアを話し合っているのを見聞きし、改めて頭が下がりました。神学教育に関わることは、こうした一つひとつの思いに応える責任を担うことでもあります。

不安のうちに始まったお仕事でしたが、結果として自分

の関わる神学校での働きの意味や、そこで大切にすべきことなどを改めて考え直す機会を与えていただいたと、感謝しています。



有住航

生まれは大阪。「ディープサウス」などと呼ばれる、賑やかで暑苦しく、熱気に満ちた街の片隅で育ちました。多感だったティーンの時分、釜ヶ崎の「いこい食堂」におられた金井愛明という人から声を掛けられました。「暇だったら、水曜日の夜にやっている夜回りに来なさい。そこには若い人も来ているから。」

釜ヶ崎は、労働者たちが仕事を求めてやってくる街でした。日本中から多くの労働者が釜ヶ崎に集まり仕事をしましたが、かれらのほとんどは日雇い労働者として不安定な就労に従事し、まるで「景気の調整弁」のように扱われ、人権を無視されつづけました。不況により日雇いの仕事はなくなっていく、多くの労働者は野宿生活を余儀なくされ、釜ヶ崎やその周辺に住み着きました。大阪の経済を下から

支えてきた日雇い労働者たちには、もう帰る家も故郷も家族もありませんでした。金井愛明は、労働者と共に生きたいと願ったひとりの牧師であり、故郷や家を失った人たちの「家」をかたちづくろうと働いた人でした。

家や学校に居場所を見つけないのが難しかったわたしにとっても、いこい食堂は「家」のような存在で、そこでたくさんの方の大切な出会いを経験しました。そこでの出会いがきっかけとなって神学部で学びましたが、卒業後、勢い余って大阪を飛び出し、アジア太平洋地域のキリスト教学生青年運動の専従者としてフィリピンへ。アジアのダイナミックなキリスト教運動を肌で感じることでできた一方、日本とアジア諸国の間に横たわる根深い問題を、アジアの近現代史の重みを痛感させられました。

二〇一四年から二〇一五年、スイスにある世界教会協議会（World Council of Churches）のボセー・エキュメニカル研究所に滞在し、世界中のさまざまな教派にたつた同級生と一緒に「エキュメニカル運動／神学」について学ぶ機会を得ました。自分のキリスト教理解や歴史観や神学の偏狭さをこれでもかと思ひ知りました。

後期の「近現代教会史」では、一九世紀以降のキリスト教の歴史をみながら、歴史の中で形成された「伝統」や「教会」を批判的に問いながら、ワーワー議論したいと思っています。また、一九世紀以降のキリスト教が保持し続けている帝国主義的性格、暴力性、差別性の問題を問い直し、一人ひとりの負っている歴史と対話しながら、今日の教会のあり方についてもかんがえる機会にしたいと思っています。一緒にたのしくまなべることを楽しみにしています。ひとつよしに。

写真で見る 農村伝道神学校の春 (ぜひ見に来て下さい!!)



5月18日農伝の広場でマルシェがありました。

Jean's Garden に、ユーカリグニールを植えました。大きくなるそうです。



農伝の野草茶、「イチヨウの葉のお茶」と「ビワの葉のお茶」「ハーブティ（ミント、レモンバーム、マトリカリア）」を作って販売しています。



春の農業実習



行事報告

◆四月三日（水）第七十回入学式。一名入学

◆四月四日（木）始業講演…堀江有理講師

◆四月五日（金）座禅指導…佐藤研講師

◆六月四日（火）第四十回戦争責任シンポジウム…講師 関田寛雄牧師

第一部「戦争責任告白も教会史的意義」
第二部「戦争責任のもたらす宣教的課題」

理事・評議員会報告

二〇一八年度第三回定例理事会・評議員会が三月二〇日、早稲田・キリスト教会館のNCC会議室で開催された。ウイットマー校長は就任以来、各地の教会を積極的に訪問し

ている。卒業生を励まし、説教や講演などの依頼にも応えてきた。その数、二五教会をこえる。教会のほかにも各地のキリスト教学校、教区や信徒研修会などの要望に応じて神学校やカナダ合同教会の働きについて講演する機会を与えられ、好評を得ている。

二月には創立七〇周年記念礼拝が行われた。礼拝説教を星野正興牧師が担当し、礼拝後茶話会がもたれ、神学校だけでなく保育科の卒業生も共に集い、神学校の歩みを感謝するひとときをもった。三月には第六九回卒業式が行われ、三名が卒業した。新年度を迎え、入学式が行われ、始業講演は堀江有理氏が担当した。

シオン幼稚園は、新たな「認定子ども園」としての歩みが始まった。一年間の歩み

が無事に守られ、制度移行に伴い、職員の間でも懸念されていた「シオンの保育」の特色を継続できたことへの感謝の報告があった。二〇一九年度の園児数は一、二歳児一名、三、四、五歳児八七名、合計九八名。職員体制は常勤一四人、非常勤一人。新たに二名の職員を採用した。また、四月から「認定子ども園」として組織を整えるために滝澤理子氏を副園長、松木真奈氏、堀野あゆみ氏を主任として任命することが承認された。

法人関係は七〇周年記念募金には大勢の方々が協力してくださり、順調に募金が集まり、併せて七〇周年記念誌を年度内に刊行を予定しているとの報告があった。また、長年にわたって神学校後援会の事務

局長を務めた古川力也氏が退任されることになり、法人として感謝の意を伝えることにした。神学校の事務長代行について、昨年に引き続いて二〇一九年度も前校長・高柳富夫氏を任命することが承認された。（書記・本田栄一）

お知らせ

◇七月一日（月）～三日（水）神学科同窓会 場所…愛知県まるは食堂旅館

◇七月二三日（火）～二六日（金）集中講義 日本宗教史

（戒能信生講師）

◇九月二四日（火）～二七日（水）集中講義 世界キリスト教史…大倉一郎講師

◇九月二七日（木）～二八日（金）集中講義 III 牧会心理学

（大西秀樹講師・石田真弓講師）

2020 年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上（洗礼式を行わない教派については、それに準ずる）の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し（可能であれば）、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間（2年間で修了することも可）。
- 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000 円（入学時のみ）
- 授業料 240,000 円（年額）
- 設備費 30,000 円（入学時のみ）

◆受験手続

次の書類を期日までに郵送または持参する。

- (1) 入学願書（本校指定の書式）
- (2) 履歴書（本校指定の書式）
- (3) 教会（牧師または役員会）の推薦書（可能であれば）
- (4) 最終学校卒業証明書（または卒業見込み証明書）
- (5) 受験料 10,000 円（振り込み）

◆入学願書受付

- 第1回 2019年10月8日（火）～11月8日（金）
- 第2回 2020年1月7日（火）～2月7日（金）

◆入学試験日時

- 第1回 2019年11月19日（火）午前9時～午後3時
- 第2回 2020年2月18日（火）午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

- ◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください（無料）。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール：noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.noden.server-shared.com

振替番号

農村伝道神学校 00160-6-18485

農村伝道神学校後援会 00120-6-24418